

GMAT 数学完全攻略 (第2版/第3版)

正誤表

2018年7月3日

本書中、下記に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

- p.19 標準偏差の定義
誤 データの値と平均値との差の2乗の和の平方根。
正 各データの値と平均値の差の2乗の合計を、データの総数で割った値の正の平方根。
- p.35 「素数-確認問題1」の解説本文, (B), (D)の素数に4が含まれている。
誤 2, 3, 4, 5, 7, 11, 13
正 2, 3, 5, 7, 11, 13
- p.46 「約数-確認問題2」の問題(英語)の選択肢
誤 (A) 96 (B) 110 (C) 147 (D) 169 (E) 182 (F) 225
正 (A) 60 (B) 84 (C) 144 (D) 180 (E) 205 (F) 336 (G) x^5
- p.51 「倍数-確認問題2」の解説(C)
誤 下3桁が4の倍数
正 下3桁が8の倍数
- p.65 「約数-基礎問題2」の解説の(ステップ2)。
誤 $n = -5$ のとき、 $\frac{55+n}{3n} = \dots = -\frac{10}{35} = -\frac{2}{7}$ となり整数でない。
正 $n = -5$ のとき、 $\frac{55+n}{3n} = \dots = -\frac{50}{15} = -\frac{10}{3}$ となり整数でない。
- p.120 「余り-確認問題」の問題の選択肢(D)
誤 1で割った場合の余りは4である。
正 12で割った場合の余りは4である。

- p.126 「余り-応用問題 1」のステップ 2

誤 「余りと倍数の利用」の 3 のパターンに相当。

7 で割ると 4 余る数は、4, 11, 18, 25, ③②, 39, … である。

また、5 で割ると 2 余る数は、2, 7, 12, 17, 22, 27, ③②, 37, … である。

すると、質問文と条件 (2) を満たす n は 32 に 7 と 5 の公倍数を加減した数であるので、 $n = 32, 32 + 35, 32 + 35 \times 2, 32 + 35 \times 3, \dots$ となる。

正 「余りと倍数の利用」の 2 のパターンに相当。

質問文と条件 (2) を満たす n は、7 の倍数には $3(= 7 - 4)$ 足りず、5 の倍数には $3(= 5 - 2)$ 足りない値であるので、7 と 5 の公倍数から 3 を引いた値となり、 $n = 35 - 3, 35 \times 2 - 3, 35 \times 3 - 3, 35 \times 4 - 3, \dots$ である。

- p.126 「余り-応用問題 1」のステップ 3

誤 上記の条件 (2) のみを加えて考えた場合より、 $n = 32, 32 + 35, 32 + 35 \times 2, 32 + 35 \times 3, \dots$ を満たす $n < 75$ の数である。

正 上記の条件 (2) のみを加えて考えた場合より、 $n = 35 - 3, 35 \times 2 - 3, 35 \times 3 - 3, 35 \times 4 - 3, \dots$ を満たす $n < 75$ の数である。

- p.178 「比-応用問題 4」のステップ 3

具体例の t_1, t_2 および s_1, s_2 が逆。正しくは以下のような説明。

(ステップ 3) 質問文に条件 (1) と (2) を両方加えて考えてみる。

具体例を考えてみる。

$t_2 = 1, s_2 = 2$ とする。すると、 $\frac{s_2}{t_2} = \frac{2}{1} = 2$ となる。

そして、 $t_1 = 3$ とする。 $s_1 = 6$ とすると $\frac{s_1}{t_1} = \frac{s_2}{t_2}$ となるので、 $s_1 = 5, 7$ を考えれば不等号の異なるものができることが分かる。

つまり、 $(t_1, s_1, t_2, s_2) = (3, 5, 1, 2)$ の時は、以下の不等式が成立する。

$$\frac{s_1}{t_1} = \frac{5}{3} < \frac{s_2}{t_2} = \frac{2}{1} \quad (1)$$

一方、 $(t_1, s_1, t_2, s_2) = (3, 7, 1, 2)$ の時は、以下の不等式が成立する。

$$\frac{s_1}{t_1} = \frac{7}{3} > \frac{s_2}{t_2} = \frac{2}{1} \quad (2)$$

以上より、上の 2 つの具体例は条件 (1)、条件 (2) の両方を満たすので、 $\frac{s_1}{t_1}$ と $\frac{s_2}{t_2}$ の大小関係は定まらないことが分かる。

よって、質問文に解答するのに、条件 (1)、(2) の両方が揃っても不十分であると言える。

よって、答えは (E) となる。

- p.452 「直線の平行・垂直」

誤 すると、この直線 l の傾きは $\frac{-e}{f}$ である。

正 すると、この直線 m の傾きは $\frac{-e}{f}$ である。

- p.626 「数列-応用問題 3」のステップ 1 の最後の式
誤

$$\frac{q_6 + 2}{4q_6} = \frac{1}{4} + \frac{1}{q_6} \quad (3)$$

正

$$\frac{q_6 + 2}{4q_6} = \frac{1}{4} + \frac{1}{2q_6} \quad (4)$$

- p.666 「割合-基礎問題 4」

誤 (1) By the route the airplane took, the distance between Los Angeles and New York is 2,800 miles.

正 (1) By the route the airplane took, the distance between Los Angeles and New York is 2,700 miles.

- p.666 「割合-基礎問題 4」

誤 (2) The total time the airplane spent in the air was 7 hours.

正 (2) The total time the airplane spent in the air was 9 hours.